

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力を育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点 ・未来社会を創造する ・一歩踏み出し、質・量・能力を身に付け、学び続ける子の育成 ・プレゼン教育・キャリア教育・ICT教育	⑤安全・安心で快適な学校環境の整備 ④DXをとり入れた教育の推進 ③地域の関係団体等との協働による郷土教育の推進 ②子どもの自己実現を支える教育の推進 ①豊かな心、健やかな体、確かな学力を育み、生きて働く力を身に付ける教育の推進	ふるさとを愛し、心豊かに自立する子 考えをつなぐ・心をつなぐ・元氣をつなぐ	対話を通して 自分の考えをつくり 動き出す力	学習づくり	①「主体的・対話的で深い学び」を実感できる授業	授業がワクワクする課題作りをする。	B	【成果】 ・対話をしやすいグループ隊形を常時化し、根拠を問う切りかえしをしてきたことで、仲間同士の自然な対話と根拠を探して学ぶ姿がどの学年も高まった。 ・一人学び、調べ学習や学びの発信でICTを有効活用できた。学年段階に応じたプレゼンができた。 【課題】 ・教師も児童も根拠を大切にした授業を心掛けているが、対話が議論にまでは至っていないことが多く、話し合いでの深まりを生み出すことに課題がある。 ・対話と議論の違いを児童と教師が共有し深い学びにつなげたい。
						根拠を大切にした対話ができるように指導する。対話は授業の50パーセントを目指す。	B	
					④ICTや図書資料等の有効的な活用を行う。	児童が、自分で学び方や学ぶ方法を選び、ごく少人数だからこそできる児童の意識が途切れない指導をする。	B	
				生活づくり	②「なりたい自分」の実現に向かう取り組み	担任・家族との対話による「なりたい自分」を決め、自己評価と他者評価によって適宜振り返る。児童が自己有用感や自己肯定感を高められるように見届ける指導をする。	A	【成果】 ・担任、家族、本人で決めた「なりたい自分」を、学校職員や全児童と共有し、縦割り班で成果や課題を交流したり、仲間の頑張りを認め励ますことができた。 ・高学年が企画運営した縦割り活動を1年間継続して行った。全児童がそれぞれの立場で、いきいきと自分を表出できるようになった。 【課題】 ・アンケート調査で、自己肯定感の低い児童が数名いる。その子に応じた最適な指導と見届けをすると共に、保護者と学校との連携を強化したい。
					①想いや願いからつくる学級や学校の楽しい活動の計画的な実施。	こまくさタイム(朝活動)や縦割り活動で、児童の豊かな発想を生かした活動ができるようにする。	A	
					⑤一人ひとりの居場所がある安心・安全な学校	教育課程活動全体を通じて「認知力」「自己啓発力」「行動力」を育成する人権教育の充実を図る。教育相談、SST、スマイルサポーター制度の充実	B	
				地域から学び地域に貢献する	③ふるさと奥飛騨温泉郷の資源(人・もの)を活用した探究活動の充実	「奥飛騨パラダイス計画」で地域について学び、多様な考え方にふれると共に、自分の学びをアウトプットすることにより深まりのある学習にする。	B	【成果】 ・地震が起きた際に、児童は自分で身の安全を守る行動ができた。年間10回の校内訓練の積み重ねの成果であったと思う。 ・児童のよさを児童会を中心に校内発信したり通信で地域に発信したりすることができた。 【課題】 ・アンケート調査で、地域とのつながりを深めたいという意見があった。探究活動では、教科横断的に地域について考え、良さだけではなく課題に目を向けたい。地域の方の思いを聞く機会をもち、地域貢献への思いを高められるようにしたい。
					②「児童が主人公で笑顔いっぱいの栃尾小学校」にする。	児童一人ひとりの良さを見つけ、その良さを校内や地域に広げて児童を育てる。	A	
					⑤保護者や地域の方の思いに馳せる教育活動	学校運営協議会や北稜校区保小中連携の会のつながりを生かし子どもを見守ると共に、非常時において職員も児童も迅速な対応で命を守れるようにする。	A	